

1 参加者 学校運営協議会委員 6名, 校長, 学校事務局 6名

2 報告概要

① 令和元年度学校経営計画

(1) 概要説明: 前年度計画からの変更点を中心に

《めざす学校像》教育方針

- 1 学力の充実を図り、希望進路を実現させる
- 2 学校行事・部活動を充実させる
- 3 基本的な生活習慣を確立させる
- 4 安心できる学校生活を確立させる

→4を追加しました。

《中期的目標》

- 1 進路指導の確立: 『「行ける大学」から「行きたい大学」へ』、ガイダンス機能の充実
- 2 「確かな学力」育成: 授業改善を進めながら進学等に対応—社会で役立つ能力育成
- 3 人間性の育成: 他者理解、情報リテラシー、寄り添いの姿勢を重視
- 4 地域に開かれた学校づくり等: 裏山を活用した地域連携。志望倍率の維持。
- 5 校務の効率化: 効率的に仕事を整理、部活動を効率的に行う

《本年度の取組内容》 → 中期的目標に対応させ、シンプルにしました。

(2) 各分野の説明

《進路指導》現3年生進路希望と今春卒業性の進路結果

現3年生は約90%が進学希望。

今春入試の結果は4年制大学進学者微減、専門学校微増。浪人増加。

受験生全体が安全志向である影響で、ハイレベルの受験生と競合することになり、厳しい受験競争となった。その中で40期生はよく頑張った。

現役で国公立大学8名合格(浪人込10名)

《教科担任による「進路相談」(教科担当者面談)》

6月に3年生、7月と11月に1, 2年生を対象に実施 希望生徒、抽出生徒あり

《少人数習熟度別授業》

少人数習熟度別講座(1年生 数学I, 英語表現I、2年生 数学B, ECII)

年度途中で1~2回の講座変更あり

ティーム・ティーチング(1年生 情報):

3年生の各種選択授業の一部については少人数対応

《教育課程》

新学習指導要領の令和2年度(2022)入学生<44期生>では新カリキュラム

→2年次より文理分け、3年でさらに細かい対応

《海外研修》

オーストラリア(シドニー)参加予定者24名

英語研修だけでなく多文化体験・理解に重点 1家庭に1名のホームステイを予定

《生活指導》

問題行動はなし。2限目以降の大幅遅刻が減少し、1年生の欠席が増加。

通学マナーや近辺の自動販売機周辺でのマナーで苦情あり。全クラスにおいて注意喚起。

《部活動》

5月現在の部活動加入率は約80% 目標が高い部活動では途中退部の生徒もあり

《学校経営推進費事業: 「夢の扉プロジェクト 2nd~オンリーワンのガイダンス」》

昨年度終了した「夢の扉プロジェクト」に続き、「夢の扉プロジェクト2nd」を企画内容はガイダンス機能充実を図るための計画案でしたが選考されませんでした。

工夫をしていき、ガイダンス機能充実を図りたい。

3 協議概要

《遅刻》

* 刀根山高校生は生活習慣が落ち着いていると感じていたが、遅刻が多いという印象。生活習慣が確立していないと、大学生活、社会において活躍することが出来ない。しっかりと指導が必要。

A：遅刻回数により段階的に指導実施。該当生徒は「反省文」を課します。

早朝登校は効果が出ています。この豊能地域の高校では遅刻は少ないです。

進学実績と遅刻数とは一概に相関があるわけではない。家庭事情や学習意欲を共有し、個別に指導を継続。

* 就職後の遅刻は、社会的に低い評価となる。小中学生にはそのことを話している。

大人になることとは、自立していくこととは、を考えさせた指導をお願いします。

《校則》

* 校則に対する否定的な割合が生徒の中で高くなっている。それはなぜか。

A：登校から終礼まで携帯・スマホの使用禁止や制服の身だしなみ指導を実施。

これらに対する不満だと考えられます。

* ルールを守るということは現代社会では強く求められている。

この点を強く指導してほしい。

A：式の講話などで社会には守らなければならないルールがあることを伝えていく。

《相談》

* 相談できる先生の割合が年々高くなっているのは、喜ばしいこと。

A：府下平均よりも高い数値と思う。さらに高くしていきたい。

《進路指導》

* 卒業時に「行きたい大学」へ行けているのか。

A：約90%の生徒が大学進学。ガイダンス機能を強化して「行きたい大学」を目指せるように動機づけを行い、さらにはハイレベルなチャレンジも促していきたい。

《地域、防災》

* 地域と連携した防災計画をどう考えているか。

実際の災害時には地域にはお年寄りと女子と子どもが主にいる。

いざという時に高校生の力を借りたいと思う。

A：子ども園との協力や防災備蓄物資の面を考えています。

高校生は、未成年で守られる立場。高校生を地域に救助に出すことは不可。

刀根山高校は避難場所。教員が対応する形になる。教員は生徒の安全確保と帰宅指導そして避難されてきた地域の方への対応を行います。校内では教員、地域住民、生徒が協力して安全体制を作り上げます。

* 刀根山高校は災害時、刀根山6丁目住民の集合場所。集合し安否確認後、小学校へ移動という形になっている。去年の台風時、小学校のどこに何があるかが、全く分からなかった。これを教訓に地域は、各学校と協力していくため合同避難訓練を考える必要がある。今後相談していきたい。

《学校への苦情》

* 最近、どのような苦情があるか。

A：① 通用門近くの自動販売機前で生徒が購入した後、談笑していることが迷惑。

② 普段活動で使っていない校内の場所において行事練習等で活動を行う際、迷惑。

③ 通学マナーに対する苦情。横に広がって歩く。自転車でよけてくれない。等

A：① 1学期の明るい時期は、下校時間に余裕を感じてそうなりがちなので、通用門の利用時間帯変更を試みます。

② 事前に連絡を考えます。

③ SHRにおいて生徒へ注意喚起を行い、指導。

④ 地域や社会としてもどう指導するかを考える必要があると思います。

ぜひ生徒にその場で注意してください。地域とともに指導していきます。